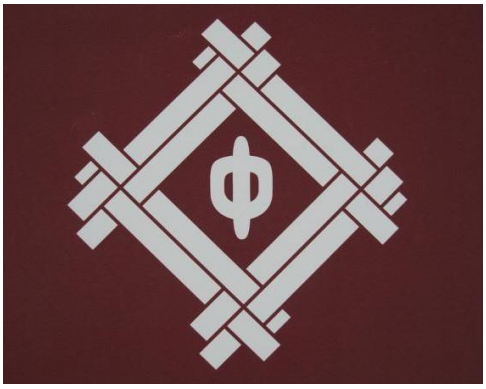
令　和　7　年　度

教　育　計　画



〒５７３－１１５４
大阪府枚方市招提東町2-1-12

枚方市立招提中学校

TEL　050-7102-9215
FAX　072-855-5593
URL　https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/5-12-0-0-0_2.html
E-mail　syodai00-jh@city.hirakata.ed.jp

はじめに

枚方市立招提中学校長

変化の激しい時代、子どもたちが抱える課題も複雑化・困難化しています。その中で、子どもたちによりよい教育を行うことができるよう、社会全体で学校や教員を支え、学校教育の質を向上させるため、令和６年８月、中央教育審議会は「令和の日本型学校教育」を担う質の高い教師の確保のための環境整備に関する総合的な方策について答申しました。

そこでは、教員の働き方改革を一層推進し、学校の指導・運営体制の充実を図るとともに、高度専門職として教員の処遇を改善することの重要性が指摘されています。

このような状況の中、これまでのやり方を思い切って変えるなど徹底した教職員の意識改革を行い、子どもたちと過ごす時間や自らの資質・能力の向上を図る時間を確保・充実させていく必要があります。

教職員の育成も非常に重要です。高度な専門職として、継続的に新たな知識・技能の習得等が教職員には求められており、研修記録等も活用した系統的な教職員の育成が急務です。

また、大阪府においては、増え続ける不登校への取組みとともに増加している暴力行為への対応が課題です。誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりを土台に、日頃からの状況把握による早期発見・早期対応を行うことが重要です。とりわけ不登校に対しては、専門家との連携による相談体制の整備、校内教育支援センターやICTの活用等により、学びにアクセスできない子どもをなくしていくことが必要です。

学力向上については、すべての教科等において、学習の基盤となる言語能力や情報活用能力等を育成するとともに、クラウドやICT機器も効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させることが重要です。

併せて、実社会とのつながりを意識して多様な人々と協働し、持続可能な社会の創り手となることができるよう、探究的な学習や小中高一貫したキャリア教育の推進も求められているところです。

以上を踏まえ、本校では下記のとおり取り組んでまいります。

●経営の基本理念

「子どもや保護者、教職員、地域が元気になれる学校」をめざして、

１．子ども一人一人を基準として、知徳体の調和のとれた子どもの育成に取り組みます。
２．温かみの中に規律のある学校を創造するとともに、将来に夢を持たせる教育を推進します。
３．すべての教職員の協働による教育活動を推進します。
４．地域とともにあって信頼される学校をめざします。

◆めざす学校像

１．子ども一人一人が個性を発揮でき、その良さを認め合い、すべての子どもの学びを保証する学校
２．厳しさの中にも温かみのある指導により、すべての子どもが安心して登校できる学校
３．教職員相互の共通理解のもと、これまでのやり方を見直し、教職員が一丸となって取り組む学校
４．家庭や地域、関係諸機関との連携を積極的にすすめ、その力を子どものサポートに活用できる学校

学校経営方針

●経営の基本理念

「子どもや保護者、教職員、地域が元気になれる学校」をめざして、

1. 子ども一人一人を基準として、知徳体の調和のとれた子どもの育成に取り組みます。
2. 温かみの中に規律のある学校を創造するとともに、将来に夢を持たせる教育を推進します。
3. すべての教職員の協働による教育活動を推進します。
4. 地域とともにあって信頼される学校をめざします。

◆めざす学校像

1. 子ども一人一人が個性を発揮でき、その良さを認め合い、すべての子どもの学びを保証する学校
2. 様々な事情を抱える子どもたちが、分けへだてなく教育を受けることができる学校
3. 教職員相互の共通理解のもと、これまでのやり方を見直し、教職員が一丸となって取り組む学校
4. 家庭や地域、関係諸機関との連携を積極的にすすめ、その力を子どもの支援に活用できる学校

■学校教育目標(今年度の組織目標)「校訓:自律　探求　友愛　協調　質実　剛健」
「自他を大切にし、自ら考え、自ら学び、予測困難な時代を生き抜く心豊かでたくましい子どもの育成」

□４つの視点

すべての子どもが学べる環境づくりを意識した授業	子どもが安心して生活できる環境づくり	すべての教職員が「働くことが楽しい」と感じる環境づくり	家庭・地域・関係機関との連携強化

□重点的な取組

○自分のペースや学習進度、学習到達度に応じて一人で学んだり、他者と協働して学べる授業(個別最適な学びと協働的な学びの両立) ○学習内容や学習方法を自己調整・自己決定して学習課題に取り組み、学びを深めることができる授業 ○放課後自習教室の利用を含めた家庭学習の定着 ○授業の予習や復習などの自主的な家庭学習の推進 ○学力(資質能力)向上担当者を要とした授業改善	○率先垂範による厳しくも温かみのある指導 ○「聴く」、「受け止める」ことによる内面にせまる指導 ○道徳・人権教育を基盤とした心の教育の推進 ○校内緑化や美化・清掃活動による校内環境整備 ○「出番を与え、役割を認識させ、承認する」開発的生徒指導による自己肯定感の向上 ○通常の学級、支援学級、通級指導教室、校内教育支援ルーム(ステップ)など、すべてに居場所のある環境づくり	○「どうしたらいい」「教えて」など、安心して言いあえる関係性の構築 ○通説や経験則のみに頼らない課題解決 ○失敗を恐れず挑戦し、失敗を許容する文化の醸成 ○研究授業、相互参観授業による授業力の向上 ○報告、連絡、相談、記録、危機管理の徹底 ○共通理解、同一歩調による相互支援 ○働き方改革を目的化しない職場(働き方改革≠時短)	○通信やブログ等を活用した積極的な情報発信 ○学校教育自己診断や学校評議員制度等を活用した学校運営の改善 ○互いの基礎的知識をもち、相手の立場を理解しながら共に取り組む関係機関との連携 ○小中連携会議や相互参観授業、合同研修会を通じた校区教職員の交流 ○市教育委員会の伴走・支援によるアクティブスクール(AS)事業の推進

□学校教育自己診断による確認

◎授業はわかりやすくしっかり学べる(子・保) 88%↑ ◎家で学校の授業の予習、復習をしている(子・保) 42%↑	◎子どもは学校へ行くのを楽しみにしている(子・保) 88%↑ ◎先生は困ったときにいつでも相談にのってくれる(子) 91%↑	◎学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業を行っている(子・保)79%↑ ◎みんなで何かをするのは楽しいと思う(子)95%↑	◎地域や社会を良くするために何をすべきか考えることがある(子) 53%↑ ◎通信やブログ等を通じて学校の取組や子どもの様子を発信している(保)83%↑